

さいたま市長 8月定例記者会見

平成25年8月8日（木曜日）

午後1時30分開会

○ 進 行 定刻となりましたので、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
それでは、記者クラブ幹事社のNHKさん、進行をよろしく願いいたします。

○ NHK よろしく申し上げます。8月の幹事社のNHKです。先週東京の本社から異動してきたばかりです。すいません、まだふなれな部分もありますが、よろしく願いいたします。

それでは、記者会見の内容につきまして、市長からご説明よろしく願いいたします。

○ 市 長 皆さん、こんにちは。いよいよ本日から第95回全国高等学校野球選手権記念大会が開会となりました。埼玉県代表として本市緑区にごぞいます浦和学院高等学校が危なげなく県予選を勝ち抜き、2年連続、12回目の出場を果たします。皆様ご存じのとおり、4月の春の選抜高等学校野球大会において全国連覇をしていることから、春夏連覇を果たし、本県に初めて優勝旗を持って帰ってきていただきたいという期待の声は大変大きく、プレッシャーも相当なものではないかと思いますが、選手の皆さんには怪我なく、すばらしい青春の思い出として一試合一試合、全力でひたむきに戦ってくれればと考えております。

幸い、監督や選手の皆さんと先日お会いしたときにも、春の全国優勝で慢心することなく、冷静に、また怠りなく準備をされている様子がかがわれ、非常に頼もしく感じました。市民の皆様も浦和学院の活躍を温かく見守っていただき、大きな声援を送っていただきたいと思います。

では、本日の議題に入らせていただきます。

市長発表：
議題「エコモビリティ2013水原（スウォン）会議に参加します」

それでは、本日の議題でございますが、来る9月の1日から4日まで韓国の水原（スウォン）市で開催されます、この「エコモビリティ2013水原会議」に参加することにつきまして説明をさせていただきたいと思いません。

まず初めに、エコモビリティ2013水原会議の概要についてご説明をいたします。

開催地は、韓国の水原（スウォン）市でございます、首都のソウルから30分前後の場所にある市でございます。

水原（スウォン）市への訪問は、昨年4月にさいたま市訪問団として市議会議員団、また商工会議所の皆様と伺って以来ということになります。

今回の「エコモビリティ2013水原会議」につきましては、自治体リーダー、そして交通計画の専門家、エコモービルの製造者などがエコモビリティに関しまして意見交換、そして情報共有を行い、世界が目指すべき方向性を認識することを目的とした会議でございます。

今会議は、前回は韓国の昌原（チャンウォン）市で開催され、さいたま市の参加は今回が初めてということになります。

参加者は、現在のところ、世界各国から100人以上を見込んで聞いております。

会議では、水原市を実証実験地域とした未来のエコモビリティ都市の実験の視察をさせていただき、それから水原市長によります特別講演、また各テーマに関する首長の発表、イクレイ加盟に伴うイクレイ会員証の授与式、またさいたま市ブースの設置などが行われる予定となっております。

この「イクレイ」というのは、ドイツのボンを本部とします、持続可能な開発を公約した地球環境に取り組む先進自治体及び自治体協会で構成されている国際的な連合組織であり、本市は今年の7月に加盟させていただきました。

現在では世界で83カ国、1,000以上の自治体等で構成されておりまして、日本国内では19の自治体が加盟しております。政令市では11市ということになります。

次に、この会議に行つて何をするかということでもありますけれども、特に首長発表ではさいたま市も発表させていただけるということになってお

りまして、私が発表させていただくことになっております。

講演では、テーマとしては、さいたま市が取り組んでいる2つの施策ということで、1つは電気自動車の普及施策であります「E-K I Z U N A P r o j e c t」について。

ここでは、企業との協定でありますとか、あるいはプロジェクトの基本方針であります充電セーフティネットの構築、また需要創出とインセンティブ付与、地域密着型の啓発活動といった取り組み、また全国産官学のE V会議でございます「E-K I Z U N Aサミット」などについて報告、発表させていただく予定でございます。

ちなみに、このE-K I Z U N Aサミットであります、これまで平成22年と23年はさいたま市で開催をさせていただきまして、まさにさいたま市発の会議であります、昨年度は浜松市で行われ、今年度はつくば市で行われる予定となっております。

次に、もう一つのテーマは、「次世代自動車・スマートエネルギー特区」の重点プロジェクトの一つでもあります「超小型モビリティ導入促進事業」についてでございます。

これは、先般も発表させていただいておりますけれども、さいたま市と本田技研工業株式会社、また株式会社本田技術研究所で構成をいたします「さいたま市小型電動モビリティ利活用推進協議会」が平成25年5月30日に申請いたしました超小型モビリティの導入促進事業の事業計画が平成25年6月28日に国土交通省から認定をされたところであります。

国内初となる新たなモビリティ開発とまちづくり連携をコンセプトとした超小型モビリティを活用した超小型モビリティ導入促進事業の事業計画について紹介をしていきたいと考えております。

また、会議中はさいたま市ブースというものを設置させていただきまして、こうした取り組みのパネル展示、またリーフレットの配布などを行わせていただく予定でございます。

今回の会議については、9月1日から4日までとなっておりますが、私自身が参加をさせていただくのは1日から2日ということでございまして、1日は午前中は防災訓練がございますので、それが終了してから日本を出国をしまして、夜、もうかなり深夜になりますけれども、水原（スウォン）

市に到着をして、翌日の早朝から水原市の市長と面会、そして市長の講演、それからイクレイの会員証の授与式などに参加をさせていただきまして、そういった日程をこなした後、午後、夕方近くの午後になりますけれども、韓国を発って日本に帰ってくるというスケジュールでございます。

今回、このエコモビリティ会議への参加を通しまして、さいたま市のエコモビリティに係る施策を海外に発信していき、本市が環境未来都市の実現に向けた先導的な都市であることを国内外にアピールをしていきたいというふうに考えております。

私からの説明は以上でございます。

議題に関する質問

○ NHK はい、ありがとうございます。それでは、この件に関して、幹事社から質問させていただきます。

まず、講演なさるといことですが、一番どのような点を訴えて、ポイントとしては、いかれるんですか。

○ 市 長 そうですね。1つは、ここ数年来にわたって取り組んできました、電気自動車を中心とした次世代自動車への本市の取り組みについて発表させていただこうと思っておりますのと、つい先般指定をしていただいたばかりの、超小型モビリティ、2人乗りのモビリティ、ホンダと連携して進めている事業でありますけれども、これらの取り組みについて発表させていただくことによって、さいたま市の先進的な取り組みというのを多くの皆さんにお知らせしていきたいと思っております。

ちょうど昨年だったでしょうか。この昌原（チャンウォン）市に行ったときにもですね、教育関係の会議でありましたが、環境に関する取り組みということで、こういった取り組みを一部発表させていただいたところでもありますけれども、大変大きな反響を呼びまして、今回も先般水原市の市長がお見えになったときに、またこういった会議をやるので、ぜひ出席をしないかというようなお声がけもいただいたところであり、今回はそういう意味では環境先進都市としてのさいたま市を大いにPRする場にしていきたい、このように思っています。

○ NHK 今おっしゃっていただいたこの超小型モビリティなんですけれども、こ

れの今の現状と、今後予定とといいますか、こういう動きがありますよというのがあれば。

- 市長 超小型モビリティについてはですね、現在まだモビリティが完全に開発が終わっておりませんので、1月以降に市内でまず2台の実験走行を予定しております。そして、平成26年から27年度にかけて、大宮と浦和美園地域での社会実験として、11台の走行を予定しております、カーシェアリングあるいはこういったものを使った実証実験などを行っていく予定としております。
- NHK あと、この市役所の前にちょうど電気自動車の、何というんですかね。充電。
- 市長 はい、充電器。
- NHK 充電できるものがあるって、ああ、すごく力入れて取り組んでいらっしゃるんだなと思いました。きょう実際に止まって充電している車もあったんですけども、やはりまだまだ電気自動車は普及になっていないと思うんですね。この超小型モビリティのほうは本当に最新ということで、まだ実験段階でしょうし、まずは今販売されている電気自動車をどのように増やしていくかという点がすごく重要だと思うんですけど、そのあたりさいたま市として何か政策とかやっているものあるんでしょうか。
- 市長 これまでもずっと継続しておりますが、電気自動車を購入する際の一部補助金を支出をさせていただいたり、あと急速充電器の設置についても補助制度などを設けまして、セーフティネットとしての急速充電器をより一層普及させて、それが充実をしていくということとあわせて、今非常にガソリンも高騰していますので、ランニングコストという意味では非常に安く活用できるということもありますので、電気自動車の普及促進もあわせてやっていこうと考えております。
- NHK わかりました。はい。長くなりました。幹事社からは以上です。
- 各社、この件に関しての、まず質問よろしくお願ひします。
- 埼玉新聞 済みません、埼玉新聞ですが、今のEV補助金に関して、申請が始まっていると思いますけれども、今の申請状況を教えてください。
- 事務局 環境未来都市推進課です。
- 現在の補助金の申請状況なんですけども、22台ということで補助の申

請を受け付けしております。

- 埼玉新聞 総枠は何台分でしたっけ。
- 市長 全体の。
- 事務局 今年度ですね、EVに加えまして、PHVという車についても補助対象としております。それらを含めまして100台程度を見込んでおります。
- 市長 ほかにはいかがでしょうか。
- NHK よろしいですか。

幹事社質問：さいたまクリテリウム BY ツールドフランスの進捗状況について

幹事社から質問させていただいております。ツールドフランス、あっ、さいたま市でやるんだということで、私、東京にいるときも非常に注目していたんですけども、2カ月余りということになってきましたけれども、非常に全国から、埼玉でツールドフランスがということは注目浴びていると思いますが、今のところの進捗状況ですとか、有名な選手が出るのかとか、教えていただければと思います。

- 市長 それでは、さいたまクリテリウム by ツールドフランスについての進捗状況についてお答えをしたいと思います。

まず、出場選手につきましては、先ごろ行われましたツールドフランス第100回記念大会の優勝者を含む上位選手を中心に、現在ASOサイドで調整をさせていただいております。その中から20人から30人選ばれてくるということになっております。

また、国内選抜選手10人から20人につきましても、現在日本自転車競技連盟に依頼して選考していただいているところございまして、いずれも今月中をめどに出場選手が決定する見込みとなっております。参加選手が決定次第、速やかに皆様にお知らせをしたいと思います。

また、今回ツールドフランス本大会に唯一出場されております日本人選手の新城幸也選手につきましては、モンサンミッシェルでお会いした際、さいたまクリテリウムへの参加に意欲を示されておりましたので、出場いただけるのではないかと考えております。

また、協議内容については既にもう発表しておりますが、さいたま新都

心周辺の特設コース、1周2.7キロメートルを20周走行するクリテリウムメインレース、また出場選手を半分ずつに分けて行うポイントレース、それからエリミネーションレースというものを予定しております。

また、一般参加者によりますコース体験走行も行う予定にしております。安全確保の観点から競技レースは行いませんが、実際に選手が走行するコースを体験できるという魅力的な企画となっております。一般参加者の募集につきましては、9月を予定しております。応募者多数の場合は、抽せんということになります。

また、サイドイベントにつきましては、さいたまスーパーアリーナのコミュニティアリーナやけやき広場におきまして、スポンサー企業のPRブースや地元産品、それからフランス産品の飲食物販、そして自転車安全教室、にぎわい創出のステージイベントなど、あらゆる世代が楽しめるような企画を用意してございます。

さいたま新都心駅東側におきましても、周辺の企業の協力のもとに、大会を盛り上げるイベントを企画いたしております。

また、大会当日は大宮駅西口鐘塚公園におきまして、大宮区民まつりとタイアップした大宮サテライト会場というものを設置させていただきます。

また、浦和駅東口駅前市民広場では、商工団体等と連携をした浦和サテライト会場をそれぞれ設置してまいります。

さらには、なかなか埼玉までお越しをいただくことができない西日本の皆さんにもお楽しみいただくために、関西空港とタイアップをして、西日本サテライト会場も設置する予定となっております。関西空港では、当日だけではなく、さいたまクリテリウムのPRを初め、埼玉の観光物産の情報発信や販売なども1カ月ほど前からオータムフェアとして期間中実施いただく予定となっております。

さいたま新都心で繰り広げられる興奮と感動を同時中継で関西の皆さんにもお伝えをしていきたいと考えております。

また、大会当日だけでなく、9月下旬開催予定で集客が見込まれておりますさいたまカーフリーデー、また10月中旬開催予定の、東京で開催する予定の「のびのびシティさいたま市フェア」などにおきましても、大会PRを兼ねてプレイベントを行っていく予定でございます。

また、市役所庁内の雰囲気盛り上げるために、大会正式ロゴをあしらった職員用のオリジナルポロシャツを現在作成中でありまして、勤務時はもちろん、普段着としても活用して、職員みなで応援する形にしていきたいと思っております。8月下旬ぐらいに着用が開始されるということになると思います。

また、大会運営に必要なボランティアにつきましても、医師、看護師資格を有する方、また英語またはフランス語ができる方、手話ができる方、さらには会場誘導ボランティアなど、現在市報8月号や公式サイトなどで広く募集をしているところでございます。

また、その他交通規制、雑踏警備等の警察との調整をはじめ、消防との救急体制の確認、仮設建築物、屋外広告物など各種法令手続等についても関係機関と現在協議を進めているところであります。

また、周辺住民への説明、JR東日本を初め、バス、タクシー等、公共交通事業者への協力依頼など、大会運営に遺漏のないように、また周辺住民の生活や企業活動への影響を最小限に抑えられるよう、鋭意準備に取り組んでいるところであります。

また、昨日はフランス大使館にも訪問させていただきまして、臨時代理大使と直接話し合いの場を持つことができました。大使館としても、このイベントに大変関心を持っており、連携方策などについてアドバイスをいただくことができました。今後の継続開催に向けて、力強いパートナーになっていただくことを望んでいるところであります。

以上でございます。

○ NHK

ありがとうございます。

幹事社質問に関する質問

この件につきまして、やはり自転車のまちとしてこれからさいたま市、エコということもありますけれども、売っていく考えなどあるのかなという点と、あとごめんなさい、そもそもこのツールドを誘致した一番の目的をもう一度教えていただけますか。

○ 市長

前後関連いたしますので、先ほど水原の会議のお話もさせていただきましたけど、さいたま市は、環境先進都市としての取り組みを行っております。

して、いわゆるCO₂の割合でいいますと、自家用自動車が排出するCO₂がさいたま市はほかの都市と比べて非常に多いというのが特徴の一つとなっています。

その中で、これから自転車というのが、1つは環境という視点からも、それからもう一つ、さいたま市は急激に高齢化が進んでいくというふうに予測されているわけでありまして、健康という視点からもこの自転車という乗り物がこれからさいたま市にとって大変重要な役割を果たしてくるだろうということで、1つは自転車を大いに活用したまちづくりを進めていこうということがございます。

そして、埼玉、これ県全体でいいますと、自転車の保有率、県民1人当たりの保有台数は全国でナンバーワンということでもございますし、非常に自転車が広く市民の皆さんに使われているまちでもございますので、こういったことを大いに活用して、自転車のまちづくりを進めていこうということが1つ。

それからもう一つはさいたま市は「スポーツのまちづくり」というのもあわせてやっております、スポーツが持っているさまざまな力ですね、健康の維持増進、あるいは青少年の育成ということだけではなくて、地域の一体感をつくっていく地域意識の醸成であるとか、あるいは地域経済の活性化に寄与させようということで、一昨年、さいたまスポーツコミッションというのを立ち上げまして、これまでも全国的な大会、あるいは国際的な大会を誘致をしてきたところでもあります。そういう意味では、このイベントをその一つの目玉にしていこうということで、経済の活性化にも寄与させたいという思いがございます。

自転車のまちづくりについては、今年度からまず一つは(原則) 小学校4年生の子供たちに対しまして、子ども自転車運転免許を取っていただくということで、昨年までは84校(78校) (会見後修正) だったのですかね。詳しい数字は、もしかしたらちょっと違っているかもしれませんが、ことしは104校(103校) (会見後修正) 全校に対してこれを実施をさせていただく予定になっております。

それから、現在策定をしているところでありますが、自転車道のネットワークを整備していこうということで、その構想、計画づくりを現在取り

組んでいるところであります。

また、今年の5月からコミュニティサイクルをスタートさせました。現在は12カ所でございますけれども、今後20カ所にまで広げていこうということで、コミュニティサイクル、これをさらに広げていこうと考えております。

いずれにいたしましても、この自転車を安全に、しかも楽しく活用していくまちづくりを今後このツールドフランスを誘致をしたことを一つの契機として進めていきたいと、このように考えているところであります。

○ NHK 非常にこの自転車でのまちづくりというのは、おっしゃるように自動車のCO₂もなくすし、健康でもということで、私も普段自転車好きで乗っているんですけども、まず自転車が、埼玉県が日本ナンバーワンというのは驚きだったんですが、その分ですね、やはり駐輪場もたくさん作らなきゃいけないと思うんですね。駐輪場の数も日本ナンバーワンでなければいけないと思うんですが、特にやっぱり駅前とか、今まで駅までバスで行っていた人が、ちょっと健康も含めて、自家用車で行ってた人が健康もあれで自転車で行こうというときに、やっぱり駐輪場がないと、違法駐車もありますし、そのあたりの政策は。

○ 市長 そうですね。駐輪場の整備も駅前周辺のまちづくりとあわせて今進行させているところでございまして、昨年度中で多分武蔵浦和は終わったりもしていますし、あと今計画中也幾つかございますけども、やはり放置自転車の問題なども、これ片方で大変大きな問題でもありますので、そういったことにも現在取り組んでいるところであります。

コミュニティサイクルを逆に活用していただくことで、少しそういった部分にも、解消というか、緩和をするための一つの役割を担ってほしいと考えて、このコミュニティサイクルの導入も今図っているところでございます。

○ NHK ただ、コミュニティサイクルは、まだ目標としても20ぐらいなんですよ。

○ 市長 そうです。今のところは、大宮駅、大宮周辺を中心にやっておりますが、将来的にはさいたま市全域にこのステーションをつくっていききたいと思っております。

- NHK 例えば今まで、私まだ初心者なんですけど、浦和の駅の周り、割と駐車場があるなと思ったんですけど、そこを例えば駐輪場にするとか、そういうお考えとかはあるんですか、そこまでは。
- 市 長 そうですね。駐車場もある程度やはり確保しておかなければいけないということで考えておりますので、当面は駐車場と駐輪場はちょっと別個のものとして多分整備していく必要があるかなというふうには思っております。
- NHK じゃ、駐輪場を増やしていくというようなことでよろしいのでしょうか。はい、わかりました。
- はい、幹事社から以上です。この件について、各社お願いします。
- 埼玉新聞 埼玉新聞です。
- こちらの大会の成功するかどうか、私考えるには、市民がどれだけ関心持って、またかかわっていくか、大きな鍵かなと思います。それでですね、私ちょっと聞いたところによると、特定の例えば組織とか団体にとらわれないで、この大会をどう盛り上げていこうかということで集まりを持ったりするような動きが一部始まっていると聞いています。
- 先ほど市長がいろんな取り組みをやるということでおっしゃっていましたが、その中で例えば市民にかかわってもらうようなもの、取り組み、今後大会まで、もしくは大会当日、どのようなものを考えていらっしゃるか、今時点でですね、決まっているものあればお願いします。
- 市 長 大きくは、この大会を見るという視点と、支えるという視点と、それからもう一つは……3つぐらい視点あると思っておりますけど、1つは大会をより多くの人に見ていただきたいというのが1つですね。
- それからもう一つは、するという部分で先ほど言いましたけれども、市民参加の部分もございますので、そういったものに参加をしていただいたり、あるいはボランティアとして協力をしていただいたりというようなこともあると思います。
- それからもう一つは、やっぱり広報という部分で、今お話のあったとおり、今いわゆるフェイスブック等でいろんなネットワークを組んでいらっしゃる方々であるとか、昨日も取材に来ていただきましたけど、ニュービジネス協議会の方々であるとか、あるいは大学生とかですね、それぞれい

ろんな形で、この「さいたまクリテリウム by ツールドフランス」を盛り上げていこうというような動きが、いろんなところでおかげさまで出てきておりまして、それによっていろんな広報に努めていこうであるとか、あるいは自分たちなりの盛り上げ方をいろいろ考えて取り組み始めて、私たちが直接絡まない形であったり、あるいは一部連携をさせていただきながら取り組んでいただいたりもしている状況がございます。

これは、私たちにとっても大変いいことであると思いますし、ありがたいことであると思っております。

今回のツールドフランスという大会は、単に国際的な自転車レースを開催するというだけでなく、先ほども言いましたけども、さいたま市の地域経済の活性化でもあったり、あるいは先ほど申し上げるのをちょっと忘れてしまいましたが、さいたま市のブランド力ですね。

スポーツのまちとしてのブランド力をさらに高めるためにも、大変大きな大会であると認識をしております。

ですから、私自身も先般もフランスへ行って記者会見などもやらせていただいたりですね、世界に、そして全国に発信ができる、またしたいイベントでありますので、そのためには多くの市民の皆さんにもかかわっていただいて、それぞれやれること、あるいは工夫しながら、楽しみながらこのツールドフランスを盛り上げていっていただきたいなと思っております。いろんな動きが出ていることを私たちは歓迎の目で見ているということでもございます。一部連携できるところは連携をしていきたいと、このように思っています。

- 埼玉新聞 じゃ、そういった動きで、連携できるものはどんどん連携していくというお考えだということですね。
- 市 長 そうですね。
- 埼玉新聞 わかりました。ありがとうございます。
- 市 長 ほかにはいかがでしょう。
- NHK よろしいでしょうか。
- 朝日新聞 済みません。
- NHK どうぞ。
- 朝日新聞 スポンサーの件でお伺いします。

1カ月ぐらい前は、何か目標額の半分強という話だったんですけど、今の進捗状況をお聞かせ願いたいというのと、スポンサーの額がもともと1億5,000万円ぐらい目標だったと思うんですが、それが変わっていないかということをお聞かせください。

○ 市長 現在ですね、スポンサー協賛については引き続き継続的に協力の依頼、あるいは検討をしていただいている状況がございます。

目標額は変わっておりません。やや遅れてはいますが、順調に推移していると思っております。詳しい話は、現時点ではちょっといろんな影響がございますので、申し上げられませんけれども、やや遅れてはいますが、順調には進んでいるというふうに考えております。

ぜひ前向きに、積極的に記事を書いていただいて、マイナスな記事が出ますと、物すごい影響が実を言うところであってですね、いろんな反応が私たちあって苦慮しているところであります。これ世界で初めてのチャレンジなんです。ぜひ応援してください。

○ NHK じゃ、ツールドはよろしいでしょうか。

じゃ、そのほか何か質問ございましたらよろしくお願いします。

その他： 世界水泳で優勝した瀬戸選手への表彰の検討について

○テレビ埼玉 テレビ埼玉ですけれども、先日世界水泳で金を獲得した県内出身の瀬戸大也選手の快挙についてなんですけれども、先日、上田知事は彩の国スポーツ功労賞を贈るというふうに発表しました。毛呂山町出身ということで、西地区の埼玉栄高校を卒業されたということで、これまで市に関連するオリンピック選手等々に贈ってきたさいたま市文化賞、こちらとか、あるいは別の賞等をですね、贈る、もしくは検討するというご意思というのはあるのでしょうか。

○ 市長 そういう意味では今、毛呂山出身ということが全面に出ておりますが、埼玉栄高校の出身ということもありますので、今後検討していきたいと思っております。

今回の世界水泳で金メダルをとったということはですね、大変大きな快挙だと私たちも思っておりますので、これから次のオリンピックに向けて

も、私自身も期待していますし、応援もしていきたいと考えておりますので、今回の快挙についてまた改めて市としても検討していきたいと思いません。

○テレビ埼玉 ありがとうございます。

その他：閣僚等の靖国神社への参拝について

○ 時事通信 時事通信です。お願いします。

靖国問題について伺います。来週終戦記念日で、安倍総理含めて4人の閣僚が参拝を見送る一方ですね、数人の閣僚が参拝するというふうに一部伝えられておりますけれども、こういった動きを市長どうごらんになっているかということと、市長ご自身、8月15日に靖国神社に参拝するお考えがあるかどうか、あわせてお願いします。

○ 市 長 まず、私自身については、参拝をするつもりはございません。

あと、総理を初め各閣僚の皆さんにおかれましては、それぞれの一人の政治家として、またそれぞれのお立場を十分に考えていただきながら、総合的な判断の中で行動していただくことが必要だと思っております。

○ NHK いかがでしょうか、そのほかどうぞ。

その他：

8月に採用した任期付職員の採用について

○ 読売新聞 読売新聞といいます。

8月の人事の件でちょっとお伺いしたいんですけども、元自民党市議の吉田さんが任期付きの採用としてされていますけども、元自民党市議のということで、選挙の際には清水陣営をお手伝いされたということも聞いていますが、今後議会との間で何か新しい火種になったりしないかという点と、あと職員の間には戸惑いなどが無いのか、市長は感じられていないか、ちょっとお伺いしたいんですけども。

○ 市 長 吉田さんを採用したということについては、私自身は2期目のスタートに当たりまして、この「幸せ実感都市」、そして「選ばれる都市」を実現をしようということで、「新しあわせ倍増計画」とか、あるいは「新成長

戦略」というものも掲げて取り組んでいこうということで、それに向けて政策的に強くて、しかもさいたま市のことを十分に理解している人材が必要であるというような強い認識を持ちまして、その中で適材がいらないかということ考えてまいりました。

その中で、やはり自民党の元市議という部分もございますけれども、彼自身は明治大学の研究員というような立場で、これまでも国内外の自治体の研究に取り組んできたという実績もございますし、かつまた、いろんなさいたま市の行政についても精通しているというところがありますので、その中で吉田さんに白羽の矢を立てて、なっただくということにさせていただいたところでございます。

その中で、8月1日から新しく就任された総合政策監とともに連携をしていただきながら、この政策の推進に当たっていただきたいと思っております。その中でそういったことを議会の皆さんにも十分ご理解をいただけるようにしていきたいと思っております。また、職員の皆さんにもそういったことで十分ご理解いただけるものと考えております。

- 読売新聞 自民党会派の一部からは、論功行賞じゃないかと批判的なちょっと見方も出ている、があると思うんですけども、その辺、理解は得られる、どうやって理解を得ていくのか、もしあればちょっと伺いたい。
- 市長 今言った趣旨を、やはり十分に説明をしていくということだろうと思えます。
- 読売新聞 新しい火種とかにはなるとは思わない。
- 市長 そうですね、そうはならないだろうと考えております。
- 読売新聞 わかりました。ありがとうございます。
- 埼玉新聞 済みません、関連してなんですけども、吉田さんは自民党市議団の会派で、政策立案の中心でかかわっていたというふうに聞いているんですけども、あえて市長がですね、その政策担当ということで登用することによってですね、議会全体も含めて、オール与党的な立場といいますか、政策への協力体制を築いていくというような趣旨もあるんでしょうか。
- 市長 吉田さんのことがイコールそれに結びつくかどうかはわかりませんが、私としては2期目当選させていただいて以来、もちろん政策のよしあしについての議論はしっかりしていきましようというスタンスであります。

すが、できるだけ政局的な動きにつながらないように、やはり同じ危機感、同じ問題意識を持ちながら、議会の皆さんと一緒に議論をして議会を進めていきたいという思いがございますので、そのことについては変わらないスタンスであります。

その中で、それイコール今回の吉田さんの人事とが結びついているということではありません。

○ 埼玉新聞 じゃ、自民党市議団との橋渡しの役を期待されているということではないわけですか、政策的な。

○ 市 長 そうです。

○ 埼玉新聞 その期待はない。

○ 市 長 結果的には、どういう形になるかわかりませんが、一部でそういう火種になるのではないかとご心配もされている向きもございますし、もう一方でやっぱりうまくそういう役割を果たすんじゃないかという向きもありますけど、これは今後そういうことを、そのことだけをやっていくわけではなくて、むしろ政策を遂行していく、それから立案をしていくという部分の中で力を発揮してもらい、その中で多少いろんな調整役も出てくるかもしれません。

ただ、それが政策を立案し、実行していくという部分での力を期待しているものでありますので、その中で彼自身のこれまで培ってきたさまざまな能力を発揮してくれるんだろうと思っております。

○ 埼玉新聞 あと、職務でですね、他の市町村との調整とか県との調整、市議会との調整と書かれていたんですけども、同じような役割で、木下副市長を採用するときに最初参事ということで採用されまして、それから特別職ということになったと思うんですけども、そのような特別職として後に採用する可能性は。

○ 市 長 今のところ考えておりません。

○ 埼玉新聞 そうですか。

○ 市 長 はい。

○ 時事通信 2点お願いします。

その他：

① 消費税増税についての市長の見解

② 靖国神社への参拝について

1点目は、消費増税に関してです。安倍総理は、秋にもですね、増税の時期を明らかにするとされていますけれども、市長は予定どおり来年の4月に引き上げることが適当だとお考えになっているかどうかということと、2点目がですね、済みません、靖国の関係で追加の質問なんですが、これまでもですね、今回参拝はされないということなんですが、靖国神社に参拝されたことがあるかどうかということと、それからご自身今回は参拝されないということなんですけれども、それはやはり閣僚とかにもですね、参拝することについて、諸外国との関係とかいろんな悪影響を懸念されているということなんでしょうか、2点お願いします。

○ 市長 1つは、それ8月15日にという意味ですか、私が行く。

○ 時事通信 15日ではなく、以外も含めてです。

○ 市長 8月15日以外も含めてということであれば、靖国神社に参拝したことはございます。

それから、もう一つの質問についてですけれども、これはやはり一人一人、一人の政治家であろうと思います。ただ、一方でやはり社会的な立場、あるいは国際的な立場、役割ということもあるかと思います。

ですから、それらを総合的に判断をしていくべきかどうかというのは、ご自身で判断する必要があるということをお願いしたわけでございまして、行くほうがいい、行かないほうがいいということは、私からはあえて言うつもりはございません。

○ 時事通信 消費増税に関して。

○ 市長 消費増税ですね、非常に難しいですけども、現時点では私たち地方レベルというか、地域レベルでは、数字は少しいい数字が出てきている部分もありますけれども、まだやっぱり景気がよくなってきたという実感まではいっていないのが現状かなというふうに思っております。

けれども、そういった中で来年度増税をするということがいいタイミングなのかということは、やはり全体を見渡して安倍総理に判断をしていただくことなのかなと思っております。

ただ、もう一方で、やはり財政再建ということも私たち大きな課題だろ

うと思っておりますので、そういった総合的な見地から、やっぱり決断をしていただきたいと思います。

- 時事通信 市長ご自身としては、総理がどう決断されるかは別として、やはり4月に予定どおり上げたほうが良いというお考えなんですか。
- 市長 非常に現状は微妙なところですね。想像していたよりまだ景気が上昇しているとは言いがたいという中で、導入されることへの景気への悪影響というのもやっぱりかなり懸念をしていく必要があるのかなとは思っています。
- 時事通信 ありがとうございます。
- 埼玉新聞 関連してですね、安倍総理は経済専門家だけではなくて、さまざまな分野の人から意見を聞いて決めたいというふうにニュースで伝えられていますけれども、もし地方からの意見ということで、市長がですね、安倍総理から聞かれた場合、どのようにお答えになりますか。
- 市長 そうですね、そのタイミングにもよると思うんですね。
今現在であるのか、あるいはもうちょっと先のときに聞かれるのかで、多分状況は違うと思いますけど、現時点だとちょっとやっぱりタイミングをよく見きわめたほうが良いんじゃないかと (思います)。
それは、やるべきだとか、やらないべきだということではありませんけれども、景気が上向きかけているところなので、今やるべきなのかどうかということは、やはり判断のしどころかなというふうには思っています。
これが11月とか12月になると、もうちょっと明確になってくるんだろうと思いますけど、今時点だとまだちょっと、すごく難しいでしょうね、9月ぐらいに総理は判断されるということでしたですかね。
- NHK 各社いかがでしょうか。

その他：先日の麻生副総理の発言について

- 埼玉新聞 ちょっと時間がたっているんですけども、憲法改正議論で麻生副総理がですね、ナチスの手口に学んだらどうかという発言をしたことで国内外で批判が起きていまして、それについて、そうした発言が国益を損なうんじゃないかという指摘も出ているんですけども、市長のこの発言についてのご見解を伺えますか。

- 市長 麻生大臣のちょっと真意はよくわかりませんが、例え話としては、恐らく余り適切ではなかったと思います。
- 埼玉新聞 どのように適切じゃないか、もう少し一言お願いします。
- 市長 麻生大臣が何を伝えたかったのか、言いたかったのかは、私はちょっと全体のそのパネルディスカッションの状況がわかっておりませんので、具体的には言い方がこうだったというところまではちょっと申し上げられませんけれども、その憲法の改正について議論している中での事例として、ドイツ、あるいはナチスの状況を表現して参考にしてはというような言い方をされたということについて、やはり例示としては適切ではなかったと私は思っています。ですから、麻生大臣がどういうことを言いたかったのかわかりませんが、その真意が十分伝わっていないというふうに思います。
- NHK 各社いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

その他：

感染症等に関する報道発表基準の緩和について（要望）

ごめんなさい、最後に、これ質問というか、要望なんですけれども、今週の5日の日にですね、保育所で夫腸性（腸管出血性）（会見後訂正）大腸菌O26による感染症の記者レクがありました。

その中で、まずプライバシーということで保育所名は出されなかったと、埼玉県内でも出している市ありますし、全国的に出すのも当たり前なんですけれども、そこがどこか特定してしまうと、ということでした。

そこまではまだわかるんですけれども、あとは区名も出さない、あと年齢も出さないということで、5歳未満の女の子、男の子ということだったんですけれども、これはですね、全国的にいても、私都庁担当していましたが、都でも必ず出していましたし、ほかの自治体でも出していますし、それが個人を特定するというのは考えられないんですね。

さいたま市と言えば146カ所も保育所があるそうで、そこが年齢出すことで、この子がかかった、この子がかかっていないということはないので、例えば聞いてみると、今までもずっとそういうような形でけんけんがくがくと出す出さないで、それで記者レクもかなりの時間をその部分で費

やして、本題のほうになかなか入れなかった状況がありますので、これは要望なんですけれども、そういう点は、年とか区名とかというのは出すとというような形でお願いしたいんですね。

もしもっと大きな、新型インフルエンザ1例目が横浜市でありましたけれども、ああいうのがさいたま市であるということは、大さいたま市であればあり得るので、そういうような形で記者に対する発表、もうちょっと踏み込んだ形でお願いしたいと思うんですが。

○ 市 長 要望としてお伺いをさせていただきます。

1つは、公衆衛生の観点と、もう一つはやはりプライバシーの部分にも私たちが配慮しなくちゃいけないということもございますので、そういったことをもう一回踏まえて、よく検討をさせるようにしたいと思います。

○ NHK 政令指定都市ですね、多分出していないところってもうないと思うんですね、年とか。保育所名というのは、各自治体の判断でしょうけども、年齢と区名までは必ず出していただきたいと思いますので、検討よろしくをお願いします。

以上でいかがでしょうか、よろしいでしょうか。

本日は、どうもありがとうございました。

○ 進 行 以上をもちまして、市長定例記者会見を終了させていただきます。

なお、次回の開催につきましては8月の30日金曜日、13時30分からを予定しておりますので、よろしくお願いたします。どうもお疲れさまでございました。

午後2時17分閉会

※ この議事録は、明らかな言い直し、重複した言葉遣いなどを読み易く整理したものを掲載しています。なお、会見後追加・訂正・補足等された文言等については（ ）あるいは「会見後訂正」とし、下線を付しています。